



湖月抄

五





若此宗

源氏十七卷の三月より冬まで乃事又くくり以秋為

卷名也

ふにいつていつとも入宗の初よりひる夜迄乃

あつとせば平あき各ととりあせとほごさう初のみえ次

孟毛詩正義各篇之例不^{スキ}過五其内偏^{ヒト}奉^ニ則或上或下^モはばき

ハ相^{サウタウ}尚^{ハハモ}或下^{ハハモ}より^花式部^{ハハモ}の姫君と案^{ハハモ}上と名づあふふ

は藤壘の女御乃ゆり君かよりみよりてごされば此卷は秋の

夕べいあして心のはなほあき^花一とくく人の初あつりよふ

ともあきあきらなりゆりも初あき一とくともあきゆり

かきうづーあり^師汝は^{ハハモ}上のまさと世をあきとく一^{ハハモ}免て事

そり

わつらひ^{細俗}河^{ハハモ}癒^{ハハモ}病^{ハハモ}瘧^{ハハモ}

呪^{ハハモ}也^{ハハモ}也^{ハハモ}也^{ハハモ}也^{ハハモ}

真言教^{ハハモ}陀羅尼^{ハハモ}の事^{ハハモ}なり

細^{ハハモ}花^{ハハモ}の杜^{ハハモ}子^{ハハモ}羨^{ハハモ}が詩^{ハハモ}ニ^{ハハモ}手^{ハハモ}提^{ハハモ}

觸^{ハハモ}膿^{ハハモ}血^{ハハモ}と云^{ハハモ}を誦^{ハハモ}して

是^{ハハモ}杜^{ハハモ}子^{ハハモ}羨^{ハハモ}花^{ハハモ}歌^{ハハモ}云^{ハハモ}子^{ハハモ}境^{ハハモ}

觸^{ハハモ}膿^{ハハモ}血^{ハハモ}糝^{ハハモ}糊^{ハハモ}手^{ハハモ}提^{ハハモ}擲^{ハハモ}還^{ハハモ}岸^{ハハモ}

木^{ハハモ}夫^{ハハモ}と云^{ハハモ}也^{ハハモ}

細^{ハハモ}鞍^{ハハモ}馬^{ハハモ}寺^{ハハモ}と云^{ハハモ}り^{ハハモ}河^{ハハモ}が

は寺^{ハハモ}鞍^{ハハモ}馬^{ハハモ}寺^{ハハモ}之^{ハハモ}昔^{ハハモ}四^{ハハモ}十九^{ハハモ}院^{ハハモ}あ

を^{ハハモ}ら^{ハハモ}よ^{ハハモ}う^{ハハモ}の^{ハハモ}院^{ハハモ}と^{ハハモ}り^{ハハモ}同^{ハハモ}院^{ハハモ}

之^{ハハモ}六^{ハハモ}帖^{ハハモ}の^{ハハモ}に^{ハハモ}は^{ハハモ}り^{ハハモ}や^{ハハモ}あ^{ハハモ}が

す^{ハハモ}て^{ハハモ}れ^{ハハモ}や^{ハハモ}あ^{ハハモ}ら^{ハハモ}ん^{ハハモ}び^{ハハモ}

す^{ハハモ}に^{ハハモ}つ^{ハハモ}て^{ハハモ}ら^{ハハモ}れ^{ハハモ}ら^{ハハモ}れ^{ハハモ}る^{ハハモ}

わつらひよまづひもてさうりよまづひ

らなだちをせまどち^也るきてお

あひとくりあまればわらん^{河向山方}

かぶいでとらあま^{行人}とさひ

びしるるぞのなま^也とりてんごま

とるひづらひ^也とむとむとむとむとむ

わま^也とむとむとむとむとむとむとむ

ふと^也とむとむとむとむとむとむとむ

り^也とむとむとむとむとむとむとむ

とあ^也とむとむとむとむとむとむとむ

びと^也のもん^也のま^也とむとむとむとむ

四^也めん^也とむとむとむとむとむとむとむ

とむとむとむとむとむとむとむ

とむとむとむとむとむとむとむ

人のくふ 細他國之伊勢物

絡人のかきそも様々
らんやうなりたるも
おののけりまふの
あはれ

ゆゑのうら 後ゆく
うらうらなるゆゆとけ
うらうら 孟まはる
とくさうのうら

かまのの嶽 細わの
うけとさし花を
花かまののうけ
不さささささ
てはあさのうけ
うめやうはる
うらうら
うらうら

あはれなる人のあはれ

うらうらのあはれ

あはれなる人のあはれ

うらうらのあはれ

あはれなる人のあはれ

うらうらのあはれ

あはれなる人のあはれ

うらうらのあはれ

あはれなる人のあはれ

うらうらのあはれ

あはれなる人のあはれ

うらうらのあはれ

ゆゆのうら

ゆゆのうら

ゆゆのうら

ゆゆのうら

ゆゆのうら

ゆゆのうら

ゆゆのうら

ゆゆのうら

ゆゆのうら

ゆゆのうら

ゆゆのうら

ゆゆのうら

詩

あはれなる人のあはれ

うらうらのあはれ

あはれなる人のあはれ

うらうらのあはれ

あはれなる人のあはれ

うらうらのあはれ

あはれなる人のあはれ

うらうらのあはれ

あはれなる人のあはれ

うらうらのあはれ

あはれなる人のあはれ

うらうらのあはれ

詩

まつ...いそいで世よかりん
 としんんとどうらんを
 子もふり...
 竹末の...もあつぬ人
 ...
 ...
 ...

孟...か...
 娘...
 ...
 ...
 ...

...
 ...
 ...
 ...
 ...

...
 ...
 ...

...
 ...
 ...
 ...

...
 ...
 ...
 ...

...
 ...
 ...
 ...

...
 ...
 ...
 ...

...
 ...
 ...
 ...

...
 ...
 ...
 ...

...
 ...
 ...
 ...
 ...

...

...

いづりかつらうけの
細粉の便りすすの何なり
了らりと八邊のよみ河海云
遊とどかりしきりけり
か何邊八邊入わたり
ゆく元邊のよみあき
平吉
去也
御れしきりこの内八平
声毛詩第一江有池
江有池之予歸不我遊
又山谷詩近人積水無鷗
鷗野有鴈半浮鼻過
是皆平声也來心也
れりしきりしきり
又すしきりしきり

くこのけりろ 6
いこののよみあき
しりもまやま
天笑師所忌目慈惠僧正
被詠之
くこのけりろの 細 効験の

いす細粉の便りすすの何なり
了らりと八邊のよみ河海云
遊とどかりしきりけり
か何邊八邊入わたり
ゆく元邊のよみあき
平吉
去也
御れしきりこの内八平
声毛詩第一江有池
江有池之予歸不我遊
又山谷詩近人積水無鷗
鷗野有鴈半浮鼻過
是皆平声也來心也
れりしきりしきり
又すしきりしきり

てすはほいりあき
細粉の便りすすの何なり
了らりと八邊のよみ河海云
遊とどかりしきりけり
か何邊八邊入わたり
ゆく元邊のよみあき
平吉
去也
御れしきりこの内八平
声毛詩第一江有池
江有池之予歸不我遊
又山谷詩近人積水無鷗
鷗野有鴈半浮鼻過
是皆平声也來心也
れりしきりしきり
又すしきりしきり

てすはほいりあき
細粉の便りすすの何なり
了らりと八邊のよみ河海云
遊とどかりしきりけり
か何邊八邊入わたり
ゆく元邊のよみあき
平吉
去也
御れしきりこの内八平
声毛詩第一江有池
江有池之予歸不我遊
又山谷詩近人積水無鷗
鷗野有鴈半浮鼻過
是皆平声也來心也
れりしきりしきり
又すしきりしきり

細 信初の如く女子の二人は
とく 孟 主人の如くして
の十余年よりありて
あり、そのは紫上の誕生を
る。

尼の老の教のまよひ

細 尼の老の教のまよひ

細 尼の老の教のまよひ

細 尼の老の教のまよひ

細 尼の老の教のまよひ

細 尼の老の教のまよひ

細 尼の老の教のまよひ

細 尼の老の教のまよひ

細 尼の老の教のまよひ

細 尼の老の教のまよひ

細 尼の老の教のまよひ

細 尼の老の教のまよひ

細 尼の老の教のまよひ

細 尼の老の教のまよひ

細 尼の老の教のまよひ

細 尼の老の教のまよひ

細 尼の老の教のまよひ

細 尼の老の教のまよひ

細 尼の老の教のまよひ

細 尼の老の教のまよひ

細 尼の老の教のまよひ

細 尼の老の教のまよひ

かきさるるに
尼の老の教のまよひ

細 尼の老の教のまよひ

細 尼の老の教のまよひ

細 尼の老の教のまよひ

細 尼の老の教のまよひ

細 尼の老の教のまよひ

細 尼の老の教のまよひ

細 尼の老の教のまよひ

細 尼の老の教のまよひ

細 尼の老の教のまよひ

細 尼の老の教のまよひ

細 尼の老の教のまよひ

細 尼の老の教のまよひ

細 尼の老の教のまよひ

細 尼の老の教のまよひ

細 尼の老の教のまよひ

細 尼の老の教のまよひ

細 尼の老の教のまよひ

細 尼の老の教のまよひ

細 尼の老の教のまよひ

細 尼の老の教のまよひ

細 尼の老の教のまよひ

細 尼の老の教のまよひ

細 尼の老の教のまよひ

此の四ちりつら... 細 今業上も母よ... 細 母よとれま... 細 母よとれま... 細 母よとれま... 細 母よとれま...

つまれば... 細 母よとれま... 細 母よとれま... 細 母よとれま... 細 母よとれま... 細 母よとれま... 細 母よとれま... 細 母よとれま... 細 母よとれま... 細 母よとれま...

細 母よとれま... 細 母よとれま... 細 母よとれま... 細 母よとれま... 細 母よとれま... 細 母よとれま... 細 母よとれま... 細 母よとれま... 細 母よとれま... 細 母よとれま...

細 母よとれま... 細 母よとれま... 細 母よとれま... 細 母よとれま... 細 母よとれま... 細 母よとれま... 細 母よとれま... 細 母よとれま... 細 母よとれま... 細 母よとれま...

法花三昧とていふ

孟最朝の作事也 河三昧

分梵語也此ハ云正受又名

正定一法華懺法ハ智者

大師聖行法門也 花止觀

四種三昧ありいんゆう常行

常坐半行半坐非行非坐の

四種也懺法ハ天台大師或説

三邊式はくろり多ひて六種の

罪と懺悔とを法門なり

とてまうふと山なり一

孟保奇の細義あり

何とては純あり一

何とては純あり一

何とては純あり一

何とては純あり一

何とては純あり一

何とては純あり一

何とては純あり一

何とては純あり一

何とては純あり一

何とては純あり一

何とては純あり一

何とては純あり一

何とては純あり一

何とては純あり一

何とては純あり一

何とては純あり一

何とては純あり一

何とては純あり一

何とては純あり一

何とては純あり一

何とては純あり一

何とては純あり一

何とては純あり一

何とては純あり一

何とては純あり一

何とては純あり一

何とては純あり一

何とては純あり一

何とては純あり一

何とては純あり一

何とては純あり一

何とては純あり一

何とては純あり一

何とては純あり一

細保のまきく 師尼君と保との縁をたるといふ

りうるんとていふ

よくれは法花三昧とていふ

よくれは法花三昧とていふ

よくれは法花三昧とていふ

よくれは法花三昧とていふ

よくれは法花三昧とていふ

よくれは法花三昧とていふ

よくれは法花三昧とていふ

よくれは法花三昧とていふ

よくれは法花三昧とていふ

よくれは法花三昧とていふ

よくれは法花三昧とていふ

よくれは法花三昧とていふ

よくれは法花三昧とていふ

よくれは法花三昧とていふ

よくれは法花三昧とていふ

よくれは法花三昧とていふ

よくれは法花三昧とていふ

よくれは法花三昧とていふ

よくれは法花三昧とていふ

よくれは法花三昧とていふ

よくれは法花三昧とていふ

よくれは法花三昧とていふ

よくれは法花三昧とていふ

よくれは法花三昧とていふ

よくれは法花三昧とていふ

よくれは法花三昧とていふ

よくれは法花三昧とていふ

よくれは法花三昧とていふ

よくれは法花三昧とていふ

よくれは法花三昧とていふ

よくれは法花三昧とていふ

よくれは法花三昧とていふ

よくれは法花三昧とていふ

よくれは法花三昧とていふ

よくれは法花三昧とていふ

よくれは法花三昧とていふ

よくれは法花三昧とていふ

よくれは法花三昧とていふ

よくれは法花三昧とていふ

よくれは法花三昧とていふ

よくれは法花三昧とていふ

よくれは法花三昧とていふ

よくれは法花三昧とていふ

よくれは法花三昧とていふ

細茶の人のみくもり
三年位山の人とみくもり
孟十日鑑
帝の心を悟りまひ
たれらんと白とまひ

うんげの 細茶の奇
て係氏と優曇鉢華
三十年事如何私優曇鉢
羅此云瑞應般泥洹經云
爾時授内有尊樹主名優
曇鉢有寶花優曇鉢樹
有金華若世乃有佛
孟味の出はうと入りて得え

一現現則金輪王出云曇華ハ輪王出世の瑞之故号靈瑞華ハ壽八万歳ノ時節金輪王四列を
遠其時海水半域よりよりては花出現とくもと光添氏を仰めよりよりとく
とてありてはひ 所法華久遠時一現のらく 暁前の傍於の奇輪王出世の心よりて係氏より比
して一ありてはひ係氏ハ早
下の序よりて佛おせよ
て曇華あり
妙山のね乃 孟が川の
杯戸とすれは明てもとる
ぬ花の色とすれは
暁 聖の心をみくもり
鉢とすれは明てもとる
後時置と不思
師鉢ハ仍人の常住の
おなりまひりやの
よ人ありてはひ

禁足の世
うんげの人のみくもり
三年位山の人とみくもり
孟十日鑑
帝の心を悟りまひ
たれらんと白とまひ
うんげの 細茶の奇
て係氏と優曇鉢華
三十年事如何私優曇鉢
羅此云瑞應般泥洹經云
爾時授内有尊樹主名優
曇鉢有寶花優曇鉢樹
有金華若世乃有佛
孟味の出はうと入りて得え
うんげの人のみくもり
三年位山の人とみくもり
孟十日鑑
帝の心を悟りまひ
たれらんと白とまひ
うんげの 細茶の奇
て係氏と優曇鉢華
三十年事如何私優曇鉢
羅此云瑞應般泥洹經云
爾時授内有尊樹主名優
曇鉢有寶花優曇鉢樹
有金華若世乃有佛
孟味の出はうと入りて得え
うんげの人のみくもり
三年位山の人とみくもり
孟十日鑑
帝の心を悟りまひ
たれらんと白とまひ
うんげの 細茶の奇
て係氏と優曇鉢華
三十年事如何私優曇鉢
羅此云瑞應般泥洹經云
爾時授内有尊樹主名優
曇鉢有寶花優曇鉢樹
有金華若世乃有佛
孟味の出はうと入りて得え

細茶の人のみくもり
三年位山の人とみくもり
孟十日鑑
帝の心を悟りまひ
たれらんと白とまひ
うんげの 細茶の奇
て係氏と優曇鉢華
三十年事如何私優曇鉢
羅此云瑞應般泥洹經云
爾時授内有尊樹主名優
曇鉢有寶花優曇鉢樹
有金華若世乃有佛
孟味の出はうと入りて得え

とちりるるる太子金剛子
念誦書傳以下毎取見
或人云法隆寺太子念珠
一連なり又彼寺の縁起も
又とちりるる花百飲國なり
金剛子のよりるるるるる
寺資財帳才九去善多如子
金剛子此等百飲國所獻
也まぐ但重徳太子の教珠の
よりるるるるるるるる
とちりるるるるるるるる
とちりるるるるるるるる
阿万葉集袋袋袋袋袋袋
ぬすり袋のさへてるるる
みまごせんとりるるるる
みまごせんとりるるるる
み音横通く
みまごの枝よつてるるるの
河貴船が鞍馬寺の法守の鞍
馬貴船の中間は傍云の谷ま
みまごの枝よつてるるるの
比く其師仏の木の由に御瑠
璃の盡とちりるる傍傍の

いふふの枝よつてるるるる
だれゆきるるるるるるる
よつてるるるるるるるる
とちりるるるるるるるる
りりりりりりりりりり
けのれりりりりりりりり
まれりりりりりりりりり
物りりりりりりりりりり
細葉上の又や
よるりりりりりりりりり
ひるるるるるるるるるる
こりりりりりりりりりり
今四又と年とととととと

マッマッ 抱心蘆子まよとれ
てととととととととととと
アアアア 懐かしのころや
アアアア 懐かしのころや
よせわり
タナタナ 花のよはれの
細尼君の方へのころと
アアアア 懐かしのころや
花のよはれと花のよはれ
てとととととととととと
アアアア 懐かしのころや
のそよとととととととと
アアアア 懐かしのころや
てとととととととととと
アアアア 懐かしのころや
とちりるるるるるるるる
アアアア 懐かしのころや
のよふもむと懐かしのころ
ん堂のよはれと懐かしの
かみりるるるるるるるる

のまじりるるるるるるる
ととととととととととと
のりりりりりりりりりり
のりりりりりりりりりり
かてかてかてかてかてか
のりりりりりりりりりり
中おち中弁さるるるるる

結
結
結

許原の娘いぢりよといふ
しとせせぬとていふ
れ夢とも又やういふの
ひし原の夢といふ
つとちの夢といふ
まねくはわさりの
如まねくはわさりの
あつとちの夢といふ
うとちの夢といふ
の夢といふ
まねくはわさりの
どつとちの夢といふ
とつとちの夢といふ
孟夢といふ
中よとていふ
とちの夢といふ
とちの夢といふ

ぬいしよといふ
とせせぬとていふ
けいもちの夢といふ
あつとちの夢といふ
まねくはわさりの
どつとちの夢といふ
とつとちの夢といふ
孟夢といふ
中よとていふ
とちの夢といふ
とちの夢といふ

いふとていふ
とちの夢といふ
とちの夢といふ
孟夢といふ
中よとていふ
とちの夢といふ
とちの夢といふ

いふとていふ
とちの夢といふ
とちの夢といふ
孟夢といふ
中よとていふ
とちの夢といふ
とちの夢といふ

よもぎさえどしとてをりよは其もあらうとてよもぎさえどしとて

わたり吹 惟 原の幸ハ葉上と様よとてより尾君のゆをうと一向は花の上とてりて

一勅師 原の文よ葉のるれ凡もうらめしくとあるとてあつてわたり吹とより上よは花の上と

つこのとりのわがよふとてしつりあつてては原の葉れ知さふらとてもまふて

吹山の極のうらぬるにふとてしつりあつてては原の葉れ知さふらとてもまふて

い〜〜〜ろめ〜〜〜あつては原の文の初とてけ〜〜〜り師原の心れ教〜〜〜とてり

すかろ〜〜〜と 孟一様とと 細推えろく 師原の好との心れく知さふらとてり

とあそ〜〜〜とて吉吉ありあり さいりくらのぬかまこれふくれはさ〜〜〜りい

河 ねは片帆志帆とて行り けらもかり〜〜〜けりひとてあつては原の葉れ知さふらとて

あ〜〜〜り さいりくらのぬかまこれふくれはさ〜〜〜りい

あ〜〜〜り さいりくらのぬかまこれふくれはさ〜〜〜りい

あ〜〜〜り さいりくらのぬかまこれふくれはさ〜〜〜りい

あ〜〜〜り さいりくらのぬかまこれふくれはさ〜〜〜りい

あ〜〜〜り さいりくらのぬかまこれふくれはさ〜〜〜りい

あ〜〜〜り さいりくらのぬかまこれふくれはさ〜〜〜りい

あ〜〜〜り さいりくらのぬかまこれふくれはさ〜〜〜りい

あ〜〜〜り さいりくらのぬかまこれふくれはさ〜〜〜りい

あ〜〜〜り さいりくらのぬかまこれふくれはさ〜〜〜りい

あ〜〜〜り さいりくらのぬかまこれふくれはさ〜〜〜りい

あ〜〜〜り さいりくらのぬかまこれふくれはさ〜〜〜りい

新刊

よもぎさえどしとてをりよは其もあらうとてよもぎさえどしとて

わたり吹 惟 原の幸ハ葉上と様よとてより尾君のゆをうと一向は花の上とてりて

一勅師 原の文よ葉のるれ凡もうらめしくとあるとてあつてわたり吹とより上よは花の上と

つこのとりのわがよふとてしつりあつてては原の葉れ知さふらとてもまふて

吹山の極のうらぬるにふとてしつりあつてては原の葉れ知さふらとてもまふて

い〜〜〜ろめ〜〜〜あつては原の文の初とてけ〜〜〜り師原の心れ教〜〜〜とてり

すかろ〜〜〜と 孟一様とと 細推えろく 師原の好との心れく知さふらとてり

とあそ〜〜〜とて吉吉ありあり さいりくらのぬかまこれふくれはさ〜〜〜りい

河 ねは片帆志帆とて行り けらもかり〜〜〜けりひとてあつては原の葉れ知さふらとて

あ〜〜〜り さいりくらのぬかまこれふくれはさ〜〜〜りい

あ〜〜〜り さいりくらのぬかまこれふくれはさ〜〜〜りい

あ〜〜〜り さいりくらのぬかまこれふくれはさ〜〜〜りい

あ〜〜〜り さいりくらのぬかまこれふくれはさ〜〜〜りい

あ〜〜〜り さいりくらのぬかまこれふくれはさ〜〜〜りい

あ〜〜〜り さいりくらのぬかまこれふくれはさ〜〜〜りい

あ〜〜〜り さいりくらのぬかまこれふくれはさ〜〜〜りい

あ〜〜〜り さいりくらのぬかまこれふくれはさ〜〜〜りい

あ〜〜〜り さいりくらのぬかまこれふくれはさ〜〜〜りい

あ〜〜〜り さいりくらのぬかまこれふくれはさ〜〜〜りい

あ〜〜〜り さいりくらのぬかまこれふくれはさ〜〜〜りい

細三四月の〜〜〜り

孟尼の史按察大納言家

原の心

つよはちひまへしりあし
細保の初 孟^{ツチ}に訪まじ
とんとあひわれよの福
ふのせうはありつれとま
あつくほのあしりまう

こころのこころはつら
細^{つら}のこころのこころはつら
例のつらとつらに尼^ニのこころ

こころのこころはつら
細^{つら}のこころのこころはつら
孟^{ツチ}のこころのこころはつら
くみくみ人^ニのこころはつら

こころのこころはつら
細^{つら}のこころのこころはつら
孟^{ツチ}のこころのこころはつら
くみくみ人^ニのこころはつら

かんときめいげはよう^{細保の初}
かたづねよひまへしりあし
海^ニのこころのこころはつら
かんぢわませ給^孟しよも

こころのこころはつら
細^{つら}のこころのこころはつら
孟^{ツチ}のこころのこころはつら
くみくみ人^ニのこころはつら

こころのこころはつら
細^{つら}のこころのこころはつら
孟^{ツチ}のこころのこころはつら
くみくみ人^ニのこころはつら

こころのこころはつら
細^{つら}のこころのこころはつら
孟^{ツチ}のこころのこころはつら
くみくみ人^ニのこころはつら

うがた日はわか山てせせり
せせりのうううと 世間の通理られとや
三御息不 知相空のふり
よふふれう一のひのひ
思給く 牡丹花のみまふ
号ほうほう子袋もも
きもつり又明の中まも
尸さ懐胎あまらりゆみ
と号もつとにまも不
候いそれよらん
のまひ

うがた日はわか山てせせり
せせりのうううと 世間の通理られとや
三御息不 知相空のふり
よふふれう一のひのひ
思給く 牡丹花のみまふ
号ほうほう子袋もも
きもつり又明の中まも
尸さ懐胎あまらりゆみ
と号もつとにまも不
候いそれよらん
のまひ

細葉の上の母
君さくく父さくく
細母まへにうとまふつ
まへまふと

細葉の上の母
君さくく父さくく
細母まへにうとまふつ
まへまふと

細葉の上の母
君さくく父さくく
細母まへにうとまふつ
まへまふと

細葉の上の母
君さくく父さくく
細母まへにうとまふつ
まへまふと

又も海へもさしつゝも
我も他人と申ひおぼえ
くともわづぬみのし

まのくゝと人とさすま
うななりて
葉上まらるゝかみくゝ
はくゝとほくゝとくゝと
あゝとくゝとめあやさくゝ
んんとのまひとくゝとら
くゝと

とさう
とさう
とさう
とさう

さればもくゝとくゝとめ
くゝとくゝとくゝと
細沙焼せよとくゝとくゝと
ひんとくゝとくゝとくゝと
乳母のくゝと

細沙焼せよとくゝとくゝと
ひんとくゝとくゝとくゝと
乳母のくゝと

今ハまらそとくゝとくゝと
尼君とくゝとくゝとくゝと
ハ今も保氏そとくゝとくゝと
人なすもくゝとくゝとくゝと
くゝとくゝと
くゝとくゝとくゝとくゝと
くゝとくゝとくゝとくゝと
くゝとくゝとくゝとくゝと
くゝとくゝとくゝとくゝと

ゆれぬ母とくゝとくゝとくゝと
が細きよが後くゝと

くゝとくゝとくゝとくゝと
くゝとくゝとくゝとくゝと
くゝとくゝとくゝとくゝと

くゝとくゝとくゝとくゝと
くゝとくゝとくゝとくゝと
くゝとくゝとくゝとくゝと

くゝとくゝとくゝとくゝと
くゝとくゝとくゝとくゝと
くゝとくゝとくゝとくゝと

くゝとくゝとくゝとくゝと
くゝとくゝとくゝとくゝと
くゝとくゝとくゝとくゝと

くゝとくゝとくゝとくゝと
くゝとくゝとくゝとくゝと
くゝとくゝとくゝとくゝと

くゝとくゝとくゝとくゝと
くゝとくゝとくゝとくゝと
くゝとくゝとくゝとくゝと

くゝとくゝとくゝとくゝと
くゝとくゝとくゝとくゝと
くゝとくゝとくゝとくゝと

くゝとくゝとくゝとくゝと
くゝとくゝとくゝとくゝと
くゝとくゝとくゝとくゝと

くゝとくゝとくゝとくゝと
くゝとくゝとくゝとくゝと
くゝとくゝとくゝとくゝと

くゝとくゝとくゝとくゝと
くゝとくゝとくゝとくゝと
くゝとくゝとくゝとくゝと

くゝとくゝとくゝとくゝと
くゝとくゝとくゝとくゝと
くゝとくゝとくゝとくゝと

くゝとくゝとくゝとくゝと
くゝとくゝとくゝとくゝと
くゝとくゝとくゝとくゝと

ねいみよと 紀若のよと

わらわらりらりらりらりらり
業平 ねいみよと 紀若のよと
あまのねいみよと 紀若のよと
あまのねいみよと 紀若のよと

うらなひと

うらなひと 紀若のよと
あまのねいみよと 紀若のよと
あまのねいみよと 紀若のよと

うらなひと 紀若のよと

あまのねいみよと 紀若のよと

あまのねいみよと 紀若のよと

あまのねいみよと 紀若のよと

あまのねいみよと 紀若のよと

あまのねいみよと 紀若のよと

あまのねいみよと 紀若のよと

あまのねいみよと 紀若のよと

あまのねいみよと 紀若のよと

あまのねいみよと 紀若のよと

あまのねいみよと 紀若のよと

あまのねいみよと 紀若のよと

業

あまのねいみよと 紀若のよと

あまのねいみよと 紀若のよと

あまのねいみよと 紀若のよと

あまのねいみよと 紀若のよと

あまのねいみよと 紀若のよと

あまのねいみよと 紀若のよと

あまのねいみよと 紀若のよと

あまのねいみよと 紀若のよと

あまのねいみよと 紀若のよと

あまのねいみよと 紀若のよと

あまのねいみよと 紀若のよと

あまのねいみよと 紀若のよと

わたりおぼせられた
ほ式かよりゆり
へしかり

さらしきま
罪をいもくちをい
まかりこゆかし
さういらうらわり

花をよりに娘のいさへは
たましくほ氏の志を種ご
このやうにまわると
えく細葉上のいさへは
なごころん 肝 是葉の
上はのいさへりてあま
とわらわらねとさう
いら心ハ嫉妬まのう
とらくわがゆくとハ男の
らやわらんまうらうら
とハ女とわら
いとかりさめてあまひ

孟 伍心をかき入るれば
いさへりてあまひのほ
のん
むとめなして
孟 いさめまづいゆとあま
さねるんをむらうとま
いさへりてあまひのほ
のん

これいさめまづいゆとあま
紫上おれをれいさのつねの夫婦のこころのあまひをいさめまづいゆとあま
なれいさめまづいゆとあま
あまひのほ

ひまふれが今わらわののられ 細保し せや 孟保の養育 せや

うひつびまのり あられ せや あられ

むせ あられ せや あられ

わらわの あられ せや あられ

あまひ あられ せや あられ

ら あられ せや あられ

よられ あられ せや あられ

ら あられ せや あられ

とら あられ せや あられ

おの あられ せや あられ

い あられ せや あられ

ら あられ せや あられ

とら あられ せや あられ

うら あられ せや あられ

ら あられ せや あられ

い あられ せや あられ

ら あられ せや あられ

とら あられ せや あられ

ら あられ せや あられ

とら あられ せや あられ



